東方鈴奈庵
飛艶魔秘録
R-18
for adult only

どうも、佐藤はがねです。
今回は、東方鈴奈庵のカラー本です。
前回の飛縁魔本の続編を描こうと
ネームを切ったものの時間的に厳しかったので
急遽、続編のダイジェストを
カラーイラスト化した本を作る事にしました。
お楽しみ頂けたら幸いです。
コマで割ってセリフの入ったストーリー漫画は
次回の本で出せたらと思っています。

阿求「あっ！小鈴、そこ、そんな風に弄られたら・・」
小鈴「ダメよ阿求。じっとして。
へ～素女経って凄いわね。
私たち女の身体の秘密が一杯書いてあるわ。
ホラ、ね？ここ・・ここをこうするとどう？」
阿求「いや！も、もう本、持ってられない・・！」
小鈴「閉じないで阿求。
ちゃんと開くの。本も、足もね。
よく見えないわ。」
しゃ

あっ♥
こすずっ…♥
いやぁあ♥
ぶるっ…
しゃあああ♥
しゃあああ♥
しゃあああ♥
阿求「小鈴！どうしよう。怖い。
私、見聞きしたことだけじゃなく…
この身体の感覚も
忘れずに転生してしまったら…
ずっと覚え続けてしまったら…」
小鈴「いいじゃない阿求。二人で探って導いた
この身体の感覚の記憶を、身体に刻んでおいて。
本に記録するみたいに。」

少年「いつもノート貸してくれて、ありがとう。あの、また…僕、またお姉ちゃんと…」
小鈴「仕方ないわね。私たちの研究の実験代になってもらおうかしら。」
ん…
ふぁ♥
はん♥
阿求「小鈴…この子は？」
子鈴「（寺子屋事件の化け狐の子の一人ってのは秘密にしないと…）あ～、常連客の一人だったんだけどね…。まぁ…いろいろあって…」
ずっ♥
ずっ♥
ずぷっ♥
ちゃぷ♥
ちゃぷ♥

あ♥
ドキ
ドキ
ずっ♥
ずぷぷっ♥
あはあっ♥
あ…あ♥
ぶるっ
どんっ!
どんっ!
どんっ!

阿求「小鈴…っ
あたしっ…もう、ダメ
またいく！いっちゃう！」
小鈴「あら、まだまだこれからよ。
今日は沢山のお友達が
順番を待っているんだから。」
ぶるっ
ぶるっ
しゃあああっ
ぐしゅっ
ぐしゅっ
ぐしゅっ
あっ…あはっ…
あっ…もぉダメ…
こずず
ぐしゅっ
ぐしゅっ

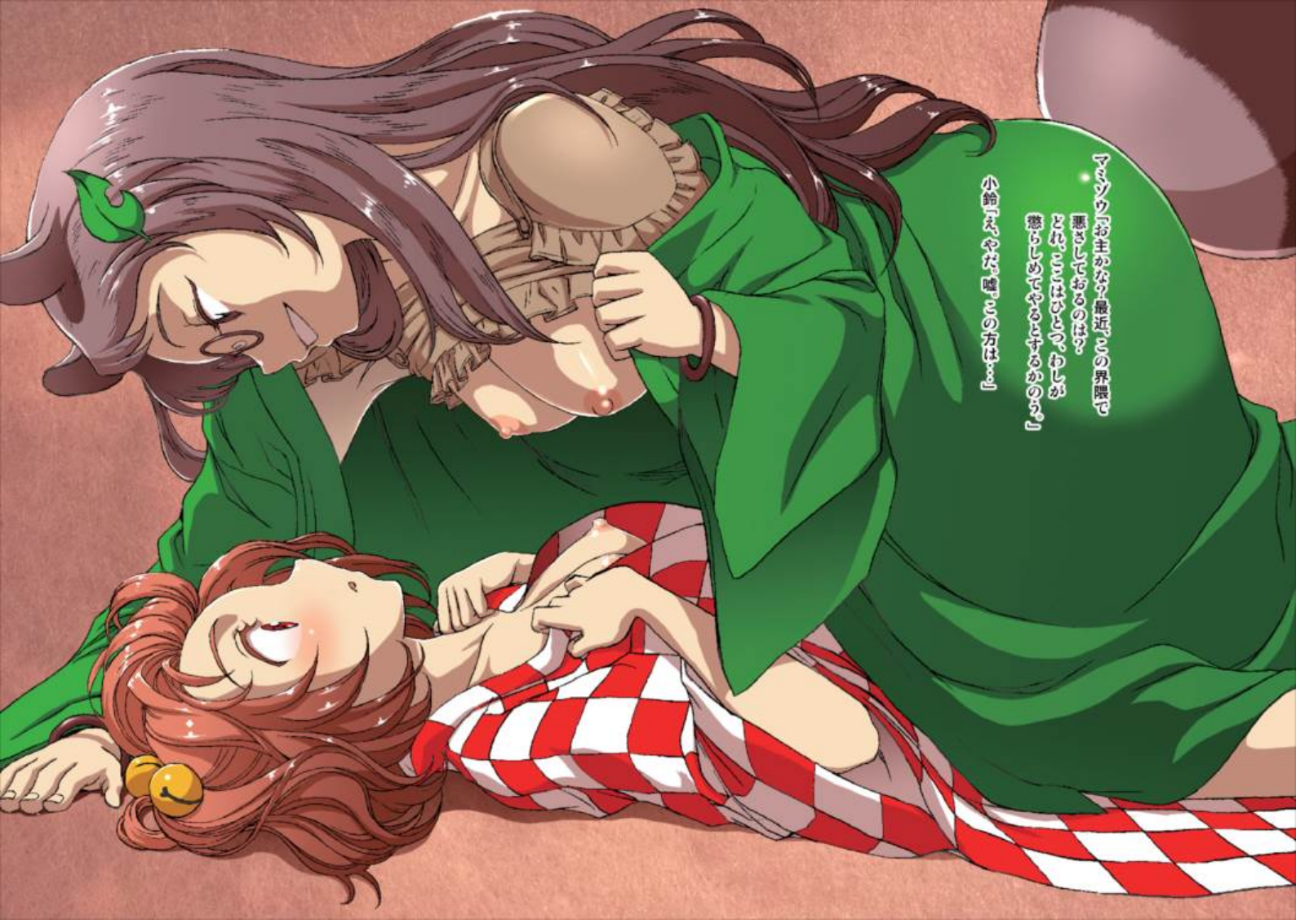
霊夢「魔理沙?!
どうしたの魔理沙?!
やめて!
(きっとこれは鈴奈庵に異変を
起こしてる妖怪が私に
幻影を見せているんだわ…
魔理沙が3人も
居ること自体おかしいもの。
…でも…)」
小鈴「霊夢さんには、この狐の子達が
魔理沙さんに見えてるのね。
自分が幻影を見てる事を自覚してる
みたいなのに…どうして
抵抗じないのかしら。」

魔理沙「うあっあっあつ！
霊夢！あぁっ！
いいのか？私たち
こんなっ…こんなことっ
してっ…ああっ！
やばっ…気持ちっ気持ち
いい！」

小鈴「魔理沙さんも、幻影の中の
霊夢さんに夢中ね。
狐の子達も、凄く興奮しているわ。」

少年「はぁっ。はぁっ。このお姉ちゃんの
の中…凄くっ、あったかくて
柔らかく吸い付いて、気持ちいい。」

はっ♥
はぁ♥
魔理沙「霊夢に激しく突かれながら
自分が逝く感覚と射精してる霊夢の
快感が同時に頭の中に伝わってくる…
自分が挿れられて逝ってるのか、
中で出して逝ってる側なのか…
もう、訳がわからなく…なってきた。」
びゅるるるっ!
どんっ
どんっ
ぴゅっ
びゅっ
びゅるっ
はっ♥
さら
どんっ!
どんっ!
どんっ
ちゅっ♥
キーん♥
キーん♥
霊夢「あぁっ…
魔理沙にたくさん
射精されながら、
逝かされながらキスしてる。
頭の中に…
射精してる魔理沙の快感も
伝わって…くるっ。」


マミゾウ「お主かな？最近、この界隈で
悪さしておるのは？
とれ、ここはひとつ、わしが
懲らしめてやるとするかのう。」
小鈴「え、やだ、嘘、この方は…」

あとがき

ここまで見て下さり、ありがとうございました。
というわけで次の作品のプレビューを
カラーイラストで描いてみるという本でした。
多少、内容が変わるかもしれないですが、
良かったら次回もよろしくお願いします。

作中、チラッとセリフに出てきた「素女経」は
中国に伝わる房中書です。
二千年前、この本を仙人から渡されて読んだ「女几」という
女性が沢山の若い男とＨして精気を奪い
美貌と若さをキープし続けたという話があるそうです。

そんな本の原典が鈴奈庵に紛れ込んでて
小鈴が阿求とドキドキしながらこっそり読んでたら、
とてもチャンスだな…と勝手な妄想してます。

それでは、皆様、よいお年を。

[東方鈴奈庵飛艶魔秘録]

2014年12月30日　発行

原作:東方Project/上海アリス幻楽団/ZUN/春河もえ
発行　：　鋼鉄
発行者　：　佐藤はがね
Pixiv ID　：　6086241
twitter　：　taisa061

印刷　：　gr@phic

成人向
18歳未満の方の購入、閲覧は
禁止させて頂きます。

TouhouProject Fanbook

2014/12/29

presented by [koutetsu]/hagane satou

for adult only